

第 103 回デジタル放送普及活動作業班会議 議事録

- 1 日時 2024 年 1 月 18 日（木） 15 時 00 分～16 時 40 分
- 2 場所 一般社団法人電波産業会内第 2 会議室、及び Webex 会議
- 3 出席者

（構成員）

委員等：

高田議長、齊藤副議長、（株）TBS テレビ 深澤委員、（株）テレビ朝日 井上委員、（株）東芝 大塚委員、青木委員、日本電気（株）橋本委員、長井委員、NHK 岡野委員（採用国対応 TF 主任）、（株）テレビ東京 樽見委員、日本テレビ放送網（株）佐藤委員、（株）日立国際電気 宮下委員、（株）フジテレビジョン 大森委員、

次世代放送検討国対応 TF 主任（NHK）神原様

情報共有者：

日本電気（株）平岡様、八千代エンジニアリング（株）峯松様、
（オブザーバ）

放送技術課 西村技術企画官、谷田課長補佐、伊藤係長、飯塚官
国際協力課 加藤課長補佐、
（事務局）

岡野、中村、野尻、小島

4 ＜配付資料＞

資料 DF103-1 第 102 回デジタル放送普及活動作業班会議議事録（案）

資料 DF103-2-1 ブラジル TV 3.0 物理層試験進捗報告

資料 DF103-2-2 技術委員会資料（ブラジル次世代地上放送 TV3.0 への活動状況）

資料 DF103-2-3 ブラジル TV3.0 物理層試験の最新状況について

資料 DF103-3-1 採用国対応 TF 活動報告

資料 DF103-3-2 ISDB-T Standard for Sri Lanka- Feedback by GOSL 14-09-23

資料 DF103-3-3 General Info in reply to Questions from Sri Lanka (to MIC)

資料 DF103-3-4 DiBEG Reply to Sri Lankan Questions (to MIC)

資料 DF103-4 地上デジタル放送システムの国際普及活動報告、2023 年度特別経費収支〈見込み〉（案）

資料 DF103-5 地上デジタル放送システムの国際普及活動計画、2024 年度特別経費予算（案）

資料 DF103-6 ISDB-T 海外普及活動予定表

参考資料 DF103-1 デジタル放送普及活動作業班構成員名簿

5 議事要旨

- (1) 会議の冒頭、マスプロ電工(株)の委員が、犬飼様から武田様に交代された旨、紹介した。前回議事録案〔資料 DF103-1〕について事務局より出席者に確認し、会議終了までに意見・コメントを求めたところ、特にコメントなく承認された。
- (2) 議事(1)に先立ち、採用国対応タスクフォース(TF)の岡野主任が別の会議とダブルブッキングのため、先に議事(2)「スリランカ地デジ標準規格について」を、資料〔DF103-3-1、3-2、3-3〕にもとづき、岡野主任に報告いただいた。
- 主な説明内容は、「スリランカ地デジ標準規格改定」についてスリランカ側からの質問事項について、第62回採用国対応TFを開催(2023年10/17)し、内容を精査した後、TFコアメンバーで会合(2023年10/30、11/7、11/28)を開き、回答案をまとめた。回答内容は採用国対応TF全体会議でメール審議(12/6~8)を行い承認。DiBEGでメール審議(12/8-14)を行い、承認後、総務省に送付(12/22)した旨、説明した。

国際協力課 加藤課長補佐) 年末に頂いた回答について、すでに、在スリランカ大使館を経由してスリランカ側に回答をしてある。現在、スリランカからの反応待ちの状態。スリランカ大使館、及びスリランカ政府のプロジェクト・マネジャーからお礼の言葉を頂いた。改めてDiBEG関係者にお礼を申し上げる。

事務局 中村) スリランカの情勢についてデフォルト状態が続いていたようだが、現状、どうなっているのか。

国際協力課 加藤課長補佐) 1/5に日・スリランカ経済協力政策協議が開かれ、地デジを含む円借款事業の再開に向け協議が開始されたと聞いている。近いうちに動き始めるといわれ、情報をお伝えしていきたい。

- (3) ブラジルTV 3.0関連の現状報告として、次世代放送検討国対応タスクフォース(TF)の神原主任よりブラジルTV3.0への対応について、ブラジル側とウェブ会議を2023年12/21、2024年1/17に実施した。内容は1月から実施する野外実験について。大きなポイントは、当初の要求条件が所要C/N 0dB以下で、隣接する別の放送局が同じ周波数を使うことを想定した周波数再利用であったが、技術的に難しいのがわかったため、一旦諦める旨説明があった。(詳細は後日配布資料〔DF103-2-3〕参照)

続いて神原主任より、〔資料 DF103-2-1〕にもとづきAdvanced ISDB-TのCfP Ph-3の室内実験結果の詳細及び今後の見通しについて説明があった。(説明を予定していた橋本委員のPCの不具合により神原主任が代行して説明)

関連事項として、〔資料 DF103-2-2〕にもとづき、1/24に開催される第326回技術委員会(放送分野)で報告予定の「ブラジル次世代地上放送TV3.0への活動状況」について高田議長から説明があった。

事務局 中村) 質問が1点、お願いが1点ある。質問は、〔資料 DF103-2-1〕の2ページの「1. プロジェクト・スケジュール」について、2024年3月で区切られ、「PJ完了」と書か

れているが、来年度は SET EXPO 2024 対応など、継続することが想定されており、どのように進めていくのか？ また、「お願い」については、冒頭、神原主任が口頭で説明された「大きなポイント」について、DiBEG メンバーに共有したいので、説明資料を追加してほしい。

橋本委員) 来年度も TV3.0 物理層の方式選定や、8 月の SET EXPO 2024 など対応しなければならない案件が多数あり、対応が必要であることは認識しているが、現時点でまだ何も決まっていない。

神原主任) 資料追加の件、承知した。(後日、資料 DF103-2-3 として追加)

神原主任) 参考情報として、TV3.0 プロジェクトとは直接関係がないが、DiBEG から提供している高度化方式の物理層とフェーズ 2 の試験で採用が決まった「ROUTE/DASH」が接続できたことをマッケンジー大学で論文にしたい旨、相談があり、関係者と相談の上、承諾した。

- (4) 今年度実施報告及び 2023 度特別経費収支見込について、議長より〔資料 DF103-4〕をもとに実施報告案について説明した。

また、事務局 小島より、付録 6 の収支見込みについて説明した。

収入について、特別経費は 1 社退会もあり 900 万円になったこと

支出見込について、No5 NAB/SET EXP02023 展示会の対応費として合計 7 名の方々の出張費用として 518 万円、SET EXP02023 の展示会・機材等の関連経費として 63 万円を計上したこと

を説明した。

さらに、付録 1～付録 5 の名簿について変更があれば連絡をお願いしたい旨を連絡した。

最後に全体を通して意見・コメント等あれば次回会合までに事務局宛てに連絡されたいと依頼した。

事務局 中村) 緊急警報放送 (EWBS) について質問が 2 つある。1 つは、ブラジル TV3.0CfP で緊急警報放送について ATSC が提案した「XML (Extensible Markup Language) をベースとした CAP (Common Alerting Protocol、災害情報を一元的に集配信するための共通プロトコル。世界標準化されている)」が採用され、前後して南米のペルーでも、ISDB-T の緊急警報放送 (EWBS) 方式から、CAP 方式に傾いているという情報が入ってきた。資料[DF103-4]にある「EWBS 検討グループ」を、今後どのようにグループを回していくのか？

2 つ目の質問は、今年元旦に「令和 6 年能登半島地震」が発生し、「ピロンピローン」とチャイム音を伴った「緊急地震速報」が数回発せられた後、震度 7、及び津波警報が発せられ、続いて「ピロピロ」という信号音を伴って「緊急警報放送」が発出された。この信号は対応するテレビを自動的に起動させ、災害の発生と災害情報をいち早く知らせることを想定しているが、現在、そのような製品は販売されていないと思われる。原因は PL 法（製造物責任法）による通電火災の回避、あるいは、各自治体が進めている震撼ブレーカー（地震が発生すると自動的にブレーカーが落ちる）の普及促進などがベースにあるものと思われる。海外では、EWBS によるテレビの自動起動を期待しているところもあり、海外と齟齬を生じないように「EWBS 検討グループ」で共通認識と、どのように対応していったらいいのか整理したらどうか？

高田議長) まず、「EWBS 検討グループ」は、当時、議長を引き継いだ時に、EWBS がどうなっているのか、また今後どうしていくのか、状況を把握するため私がリーダーでグループを立ち上げた。調和文書の更新など課題認識はできているが、ブラジル主催の国際フォーラムの開催の見通しが立たず、更新が難しいことが分かった。

EWBS 検討グループ設置後、ブラジルが CAP をベースとした ATSC 方式を採択したことについて、今後、日本の方式のままではなく、CAP を取り入れる方式を考えていく必要があると考えている。国内でも総務省消防庁が進めている「地上デジタル放送波を活用した災害情報伝達手段のガイドライン策定等に係る検討会」の報告書が、今後出てくる可能性があると思うので、その検討会との整合性を検討しなければならないと考えている。（その後の確認で、昨年 11 月に「地上デジタル放送波を活用した災害情報伝達手段の技術ガイドライン」が改訂・公開され、それ以外に報告書が出てくる予定はないとのこと。）

受信機の自動起動については PL 法との関係で国内では普及していないのが現状。今後の国

外での活動で、あまり宣伝し過ぎるのもどうかと感じている。

事務局 中村) すでに大手受信機メーカー3 社を始め、STB を作られているメーカーも今年度 1 社退会した。EWBS は海外でもニーズが高い機能であり、検討グループで知恵をだして、考え方を整理してほしい。

放送技術課 西村技術企画官) EWBS は地デジを海外に普及させる際の、防災視点で、重要なツールとして売りにしてきたが、課題も見えてきた。EWBS では広い地域に対して同胞的に情報を送っているが、一方できめ細かな情報・仕組みが欲しいという声も聞こえてきている。CAP などとのハイブリッドにより配信したい場所に特定して配信するなど、先方からのニーズを把握したうえで、進めていく必要があるのではないかと考えている。

- (5) 来年度 2024 年度事業計画及び 2024 年度特別経費予算について、議長より [資料 DF103-5] をもとに事業計画案について前回の資料から変更はなく、修正履歴を反映したことを説明した。

また、事務局 小島より予算案についてブラジル TV 3.0 対応なども考慮し、前年度より増額し、

No5 展示会参加・対応費 800 万円

No6 DiBEG ポータルサイト改修・強化対策費 250 万円

No9 展示機材レンタル費、展示パネル製作費 140 万円

を計上したことを説明した。

最後に来年度の特別経費は今年度 2023 年度と同額を徴収させていただくことを説明した。

意見・コメント等あれば次回会合までに事務局宛てに連絡されたいと依頼した。

事務局 中村) 予算について補足する。ブラジルでは、来年度早々、TV3.0 の物理層についても選定され、SBTVD-F では、SET EXPO 2024 で大々的に展示を行うと聞いている。SBTVD-F のメインブースでは、物理層を始め、他のシステムと接続して通しでデモすることが予想される。一方、日本パビリオンではより詳しい展示が必要と思われる。「映像符号化」や「音声符号化」部分など、Fraunhofer などとの共同提案ですすでに採用された部分の展示はどうするのか、また、採用からこぼれたが、EWBS やミドルウェアの展示はどうするのか？ 必要な機材は何があるのか、演出などはどうしたらいいのか、など、議長、副議長、主任に検討いただきたい。来年度の予算に絡むのでコストを積算してほしい。

高田議長) わかりました。副議長、主任と相談します。

- (6) 今後のスケジュールについて谷田課長補佐より [資料 DF103-6] にもとづいて説明された。前回資料から更新された部分としては

- ・ブラジル：ASO の予定を 2023 年 12 月⇒2025 年 6 月に更新(昨年末に 3000 都市でアナログ放送終了したが、残りの 1265 都市のアナログ放送終了が延期のため)

- ・フィリピン：ASO の予定を 2023 年以降予定⇒2024 年以降予定に更新

(2023 年末までに実施されてなく、オフィシャル発表がないため

2024 年末以降に更新)

- ・スリランカ：議事 (1) での議事内容の通りで割愛

- ・アンゴラ：JICA 協力準備調査「地上デジタル放送機材整備計画準備調査」(2024 年 1 月～)

を追記、現地調査がすでに進められているとの情報もあり

- (7) 次回 DiBEG 会議の開催予定について年度末ということもあり通常よりも早めの 3 月 7 日 (木) 15:00 ～ 16:30 にハイブリッド会議にて開催予定であることを案内した。

以上